

原点を大切に・・・

会長 宮川 清司

このたび、田中貞一郎先生の後を受けて会長の重責を担うことになりました。多くの先輩がおられるのにご推挙いただいたのは、世代交替という大きなうねりのなかで、たまたま私が岐阜師範学校の卒業生であり、また岐阜大学の卒業生でもあるという経歴によるものと思われまます。通算7年間にわたりお世話になった「母校」に対し、また卒業生、在学生の皆さんに会長という立場でご恩返しが出来ることが与えられたことに感謝しております。及ばずながら精一杯その責務を果たす所存です。役員、理事、評議員ならびに県内外でご活躍中の会員各位のご支援とご協力を心よりお願いいたします。



私達の同窓会を成り立たせているものは、「人生の一時期、自分を育ててくれた母校への感謝と愛着、発展を願う心」と「同じ釜の飯を食べて苦楽を共にした連帯感、仲間意識」であると思います。理屈や利害を超えた「熱い心」です。この原点が同窓会を支えていると信じています。

さて、ご承知のように本会は平成7年度に会則および規約を大改正しました。同窓会の原点を確かめつつ、これまでの歩みを大切にしながら、運営を円滑にするために四部会制を設けるなど、機能的で透明度の高い組織に生まれ変わることができました。私はこの作業に事務レベルで参加した者の一人として、あらためてこの会則を遵守し、この会則に基づく運営に徹していかなければならない

と思っています。

本年度は、評議会の承認を得ました以下の主要な二つの事業を実施いたします。

その一つは、各学科等同窓会から提出される名簿をもとに会員のデータベース化が進み、会員の情報管理が事務局で可能となりました。本年はこのデータをもとに、会員の方々に直接この会誌第3号をお届けすることになりました。今後、組織部会を中心に、より正確な会員名簿の整理に努力したいと思います。莫大な経費と労力を必要としますが、成功させるべく努力したいと思っています。

また、13年目を迎え、すっかり本県の教育現場に定着した感のある「教育実践研究助成事業」を事業部会が引き続き効果的に実施し、岐阜県の教育振興、充実に貢献したいと考えております。

私共の同窓会をめぐる内外の情勢は、大きな変化を来しつつあります。後輩の就職先が多様化し、ほとんど全員が教職に就くのを当然とした時代は過去のものとなりました。また、教育学部の入学者定員の削減措置に伴う財源確保の問題、組織の肥大化と高齢化に伴う会員の動向把握と基本名簿の整理と保管、活用、会員相互の共通理解とコミュニケーションをいかに深めるかなど、攻守にいとまがありません。いずれも困難な課題ではありますが、役員、理事、評議員及び会員の皆様の叡知を結集し、中・長期的展望をもって対応していく所存です。

また、母校の岐阜大学教育学部が後藤学部長や関係の先生方を中心に時代の変化に対応しつつ、地域に開かれ、親しまれ、また貢献する大学を目指して努力されていることに心からの拍手と声援を送りたいと思います。

なお、岐阜大学開学50周年記念事業に教育学部同窓会としても、農学部、工学部、医学部の各同窓会とともに参画することにいたしました。同封の趣意書をお目通しいただき、ご賛同のうえ、により、応分のご協力をお願い申し上げます。

以上、所感の一端を述べて就任のご挨拶とします。

平成9年度 同窓会評議会

平成9年度岐阜大学教育学部同窓会評議会は、平成9年5月31日(土)午後1時30分から教育学部本館第一会議室で開催された。出席者60名、委任状113名で評議会構成員の過半数に達し、会則10条6項により評議会は成立した。(司会進行は総務部部会長・渡邊義行、記録は総務部副部会長・丸山春雄がつとめた。)

■高井玉枝副会長の開会の辞のあと、田中貞一郎会長の挨拶。

(挨拶要旨は次のとおり)

『2年間ありがとうございました。会則により会長の交代をよろしく願いたします。まず、事業内容の検討と予算案の協議等願いたします。』



挨拶する田中会長と辻、高井の各副会長

■来賓の後藤忠彦教育学部長の挨拶。

(挨拶要旨は次のとおり。本号「教育学部の現状と今後の課題」参照)

『文部省は教育学部の教員養成課程の学生定員を3年間で5,000人減し、教官数の削減も進めています。本教育学部としては、平成10年にこれに対処する予定です。教育実習や就職指導にも教師経験のある方の協力を得て取り組んでいます。』

大学院教育学研究科は、障害児教育専攻が認められました。今後さらに定員の2倍以上の増を目指します。また、多くの先生方が専修免許を取得できるように、大学院の公開講座を継続的に開催し、高山をはじめ各地域とテレ

ビ会議システムで結んで遠隔授業を開講いたします。同じ校種で6年以上の教職経験があれば6単位の取得で専修免許が取れますので、同窓会員の先生方はぜひ受講ください。

平成11年に岐大50周年記念事業が企画される予定で、記念誌、記念物、岐阜大学歌等々検討していくことになっています。記念事業費用は5,000万円以上必要と推計されています。各学部同窓会等で分担し事業全体を推進することになり、教育学部同窓会におかれましてもご協力のほどお願いする次第です。』

■議事（議長は会則第11条3項により、田中貞一郎会長がつとめた。）

(1)平成8年度事業報告

総務部会、組織部会、事業部会、広報部会の各部会から報告があり、質疑応答ののち、これを承認した。

(2)平成8年度決算報告

岩田恵司総務部副部長（会計担当）から資料に基づいて会計報告がされ、続いて岩崎潔監査委員から会計処理その他適正である旨の報告があり、これを承認した。

(3)平成9年度事業計画

4つの部会からそれぞれ提案説明があった。会報第3号からは、事務局から直送することになったこと等、一括して承認した。

(4)平成9年度予算案

岩田恵司総務部副部長（会計担当）から資料に基づいて平成9年度予算案が提案され、質疑応答ののち、これを承認した。

(5)役員の変更

理事会の推挙に基づき、顧問・会長・副会長・幹事・監査を承認した。（本号5～10頁参照）

■宮川清司新会長の挨拶（挨拶要旨は次のとおり）

『新会則に基づき2年間運営にかかわってきましたが、改めるところは改め、透明感のある運営をしていきたいと思っております。同窓会活動をとおして母校への愛着、連帯感が高まるよう努力したいと考えております。』

■辻太副会長の閉会の辞。

以上

平成8年度教育実践研究助成事業のまとめ

特色ある同窓会事業として、各方面から注目されている平成8年度の「教育実践研究助成事業」は、その集大成である入賞論文の集録を発刊することで完結した。以下、その概要の報告である。

■事業の定着化

この事業が「岐阜県教育の振興、充実を期する」ことを目的として出発して以来12年が経過しました。この間、教育事務所、教育センター、県、市町村教育委員会、校長会等の全面的なご理解とご協力、ご指導を得て、今や「岐大論文」として、好評のうちに小中学校の教育現場に定着した感があります。

■応募者総数1501名

この数字は、県下教職員の約13%強にあたります。これだけの多数の皆さんの応募があったことをうれしく思います。なお、この数字、比率はここ3年来ほとんど変化しておりません。

■各層にわたる応募者、多様な取り組み

1501名のうち管理職31名、養護教諭50名、事務職員、学校栄養職員各2名、教諭1416名という内訳になっています。世代別では、30代の621名(41%)、20代583名(39%)、次いで40代の250名(17%)という数字を示しております。特筆すべきは、何かと厳しい状況下にある中学校所属の教職員の応募が586名(40%)あったことであります。研究内容も全教科、全領域にまたがっております。主題も情報化、国際化、環境、福祉等時代の変化に対応して多様化しております。入賞者の論文はそれらの頂点に立つものとして一読に値します。別掲の一覧表を参照し、機会をみてご一読していただければ幸いです。

■「入賞論文集」の充実

関係諸経費の縮減を試みる一方で論文集の質・量ともに充実を図りました。サイズをA4版にし、入賞論文を増ページしました。また、交流資料として役立つよう歴代入賞者名簿(論文名、教科領域名等を記載)を掲載しました。審査の講評も載せて紙面の充実を図りました。なお、この論文集は県内の小中学校はもちろん、教育関係機関、同窓会役員等々に贈呈してあります。

■平成9年度も実施

平成9年度(第13回)「教育実践研究助成事業」はほぼ平成8年度に準じて実施致します。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。

(事業部会・助成事業担当)

教育学部の現状と今後の課題について

教育学部長 後藤 忠彦

教育は、人々の生活、社会を構成する最も基本的な営みであり、教育学部はそれを支える教員や地域の教育を支える教育関係者を養成する重要な役割を担うべきと考え、学部全体で努力をしています。とくに最近の数年間、社会の変化に対応し、教育学部の教職員一人ひとりに変化に対する自覚とそれに対処する行動が要求されています。おかげさまで教育学部では、全教職員の努力により、大学院の設置、学部改革を進めています。

大学院教育学研究科は、計画した全専修が設置され、岐阜県教育委員会から12名とその他の教員を含め、十数名の現職教員が入学されるに至りました。また、学部学生、他大学等からも多数の入学希望者があり、現在、定員を超過大学院生が在籍しています。

教育学部は、教員養成と併せて教員研修等の役割もあり、大学院の設置に伴い、広く教員研修のお役に立ちたいと考えて、平成7年度から大学院教育学研究科公開講座(専修免許用)を開催し、多くの先生方に受講していただいています。とくに、平成9年度は、通信ネットワークを用いて高山市内で同時開講し、遠方の先生方にも受講していただけるようにしました。

学部の改組としましては、平成8年に大学改革の一環として地域科学部の設置に伴い、教育学部から学生定員70名を新学部に移行し、教官も相互に移籍しました。また、生涯教育講座の設置が認められ、平成9年4月から学生を受け入れ、社会の変化に対応し、教員免許の他に希望に応じ多様な資格の取得を可能にしました。

平成9年4月には、文部省から教員養成の学生定員の5000名削減計画が出され、教育学部は、それに対処するため、これまでの小学校教員養成課程、中学校教員養成課程を併せて、学校教育教員養成課程と生涯教育課程への改組案を提出しました。8月末に文部省の新しい概算要求事項として教育学部の改組計画が大蔵省へ出されました。学部内では、現在これらに対応したカリキュラム、入試等の計画について検討し、平成10年4月からの新しい教育体制の準備を進めています。

教育学部としては、今後まだ多くの課題が残っています。たとえば、学生の就職、教員養成としての教育実践力の育成などのために、教育実習の時期を3年生へ移行し、さらに実習校の多様化等について、教育委員会をはじめ広く教育界のご協力を得て、望ましい方向を見いだすよう検討を進めています。

また、多様な社会経験のある人材に対する教員養成等の一環として、本年度より社会人

入学の試行をはじめ、今後、その定員化を進めたいと考えています。

大学院教育学研究科では、今後、教員養成の6年一貫教育や現職教員の方々が受講し易くして学習機会の公平化を図るために昼夜開講、遠隔教育等の検討を進めています。

大学院、生涯教育課程、博物館等の整備を進めるためには、新しい校舎が必要となり、現在、将来計画として検討を進めています。

次に、このような現在の状況について説明いたします。

1. 平成9年度に新しくはじめる事項

平成9年度の新しい事項としては、生涯教育講座の学生受け入れ、カリキュラム開発研究センターの整備が認められ、最近の教育課題の研究の推進、児童・生徒とのフレンドシップ、遠隔授業による公開講座等をはじめています。

①遠隔教育による公開講座

(文部省委嘱「新教育メディア研究開発事業」による岐阜大ー高山市会場の同時開催)

岐阜大学では、全国に先駆けて大学院の公開講座を平成7年度から開講していますが、飛騨地区等の遠方の先生方が受講できなく、高山市等での開催の要望が多くありました。このため、本年度は、文部省や岐阜県の協力を得て、通信ネットワークを用いて岐阜大学と高山市で同時に開催することにしました。

この遠隔授業は、学習機会の公平化にも役立ちます。この公開講座は、飛騨教育事務所長の大平先生、高山市教育長の森瀬先生をはじめ多くの飛騨地区の方々からの要望もあり、今後とも継続していきたいと考えています。また、要望があれば他の地区での遠隔教育を用いた公開講座の検討を進めたいと考えています。

また現在、文部省で今後の通信による大学院の設置の検討が進められていて、これらの関係規則が整備されれば、ぜひ今回の試行を基礎にして遠隔教育を用いた大学院の設置を進めたいと思っています。

②カリキュラム開発研究センターの分野増

平成9年度に文部省は、地域との連携を進める大学開放として、教育委員会、学校、教育施設等と連携し、出校が困難な学習者に対する遠隔教育、新しい教育システム、教育臨床研究等のために、教授1、助教授1、客員教授(教員)1名が整備されました。本年度は、客員教員として、岐阜県教育センターから1名派遣していただき、大学開放の一環として、地域の教育界と大学の相互交流を進める準備をはじめています。とくに、カリキュラム開発研究センターと多くの先生方々が共同して開発してきた教育研究情報、教材等の教育情報を通信ネットワークを用いて県内の学校、教育施設等で活用を進める基礎研究を

はじめました。

③生涯教育講座の設置と学生受け入れ

生涯教育講座は、平成8年10月に設置され、本年の4月から学生の受け入れをはじめました。本年度の同講座への希望者は、全国から多数の受験者がありました。

この講座は、文部省へ「生涯心理」、「生涯教育計画」、「学習情報」、「生涯教育内容」の4分野で申請し、設置が認められ、新しい教官組織を構成しました。

生涯教育講座の学生は、教員免許の他に、社会教育主事や学芸員、臨床心理士、スポーツ指導員、司書教諭等の基礎の学習も進めています。

また、この講座を基礎に大学院生涯教育専修等を設置し、その充実の検討もしています。

④就職指導等の充実

最近の教育学部の就職状況は、教員採用数が少なくなり、その対策として、就職指導等を担当していただく非常勤講師と専門職員ポストを用意し、教育実習、就職等の支援を進めています。とくに、教育指導としての非常勤講師は、教職経験のある方をお願いし、教育実習から就職ガイダンス、面接、就職問題等の資料収集・印刷、さらに、臨時採用等の支援まで、教育学部教官と共同し進めていただいています。また、専門職員は、教育実習をはじめ、就職進路関係事務、教員採用、公務員、企業等の情報収集・提供、各種就職の支援を進めています。まだ十分とはいえませんが、今後更に就職指導の整備充実を進めるべく努力をしています。

2. 平成10年度の概算要求重要事項

教育学部は、ここ数年、大きな改革の嵐の中にあります。とくに平成9年4月に文部大臣が平成12年までに教員養成5000人を削減する方向が示されました。また、大学院に障害児教育を専攻として独立させる計画がありました。このため、本年度、これらの課題を解決するため、次の事項について重要事項として予算要求を進めていましたところ、文部省で認められ、大蔵省へ提出される状況になってきました。

①学部改組

岐阜大学教育学部では、教員養成課程5000名削減に対処し、教育委員会、事務部局、教官等の協力により、本年(平成9年7月)に改組計画を申請しました。その結果、8月末に、文部省で改組計画を認め、大蔵省へ提出されました。今後、平成10年度政府予算として国会で認められれば、平成10年4月から新しい教育体制で進めることとなります。

教育学部	—	学校教育教員養成課程	200人
		養護学校教員養成課程	15人
		生涯教育課程	35人

学校教育教員養成課程は、現在の小学校教員養成課程と中学校教員養成課程とも、小、中学校の両免許を取得して卒業する者が85%となっていて、現実の状況に合わせて一つの課程としました。

生涯教育課程は現在、すでに生涯教育講座が設置され、平成9年度から35名の定員で学生の受け入れを進めており、これを基礎として全講座の協力のもとに新しい課程を設置しました。生涯教育課程では、生涯学習の指導者の養成として、社会教育主事、学芸員、スポーツ指導員等の社会教育関係の資格さらに必要に応じ教員免許も取得できます。

このように今回の教育学部の改組は、教員免許の他に各種の資格取得を可能にしました。

②大学院障害児教育専攻の設置

大学院教育学研究科では、現在学校教育専修の中に障害児教育が一つの分野となっていました。今回、独立した障害児教育専攻として申請し、平成9年8月に設置審で許可がだされ、政府・国会で認められれば、平成10年4月から発足します。

国会で承認されれば、大学院教育学研究科は平成10年度から次のような学生定員構成となります。

大学院教育学研究科	—	学校教育専攻	6人
		障害児教育専攻	3人(新設)
		教科教育専攻(10専修)	33人

平成10年度要求としては、学部改組と大学院障害児教育専攻の設置が大きな課題でしたが、多くの方々の協力で方向が見えてきました。

3. 今後の課題

教育学部の改組がほぼ終り、当面の最も重要な課題は、その内容的な充実であります。このために、教育学部の教官、事務職員等が真剣に取り組み、いかによい卒業生を教育界、社会に送り出せるか努力をしています。

一方、地域に根ざし、開かれた教育学部として今後さらに発展させるためには、いろいろな課題があります。たとえば、今回、改革した教育学部の整備・充実、新しい教育・研究の発展、地域社会との連携など多くの解決すべき事項があります。次に、現在、検討を

進めている事項について説明いたします。（主として「学部改革について（中間報告）平成9年5月」より）

①大学院に生涯教育専修等の設置

生涯教育講座が設置され、さらに生涯教育課程が認められると、新しい専攻の設置が緊急の課題になってきました。このために、設置が認められるまでの間は、学校教育専修の中に、生涯教育関連分野を整備して設置準備を進め、学年進行等の設置条件が整備されれば、生涯教育専修を申請する予定です。

②大学院昼夜間開講、遠隔教育の設置 ～学習機会の公平化～

本年度（平成9年）には、文部省、岐阜県教育委員会、飛騨教育事務所、高山市教育委員会等のご協力で、通信ネットワークを用いた大学院の公開講座の試行が進められました。教育の学習機会の公平化の視点からも、各方面で高い評価がされています。

この試行研究をもとに、文部省等で大学院の通信授業に関する規則等の整備が終了したい、遠隔教育の大学院教育学研究科の設置を申請したい考えです。

また、現職教員、社会人の方々に広く大学院を開放するために、遠隔教育と併せ、昼夜間開講も進める予定です。このためには、大学院の定員増の要求も併せて進めたいと考えています。

また、今後学部学生の多くが大学院へ進学するものと考えられます。一方、現在、文部省では、教育学部6年間（学部－大学院）についての検討ははじめられ、その結果の答申が平成11年3月に出されるようです。このため、本教育学部でも学部－大学院の一貫教育の検討を進め、今後、必要に応じ定員増の申請をする予定です。

③社会人入学（学部3年編入等）

教育界では、教員として社会経験の豊かな人材の要望があり、教育学部としても、これらに対応した教員養成等を進める必要があります。ところが、現在の学部の教員養成は、高校卒（18才）入学を主にしてきました。これらの課題を解決するため、教育学部としても多様な社会経験のある人材の入学を進める必要があります。このため平成9年度に、入学生の多様化の追求の一環として社会人入学の試行をはじめました。

今後、社会人入学の試行結果をもとに、必要ならば、社会人入学枠を文部省に要求し、多様な社会経験のある教員養成を進めたいと考えています。

④郷土資料館等の設置

現在、教育学部には郷土博物館があり、昭和初期より郷土資料の収集・整備をしてきま

したが、今後、更に地域資料の整備・情報流通の充実を進める資料館の設置を検討しています。

⑤教育メディア研究センター

生涯教育課程・講座の充実、郷土資料館の設置、大学院遠隔教育、昼夜間開講、教育情報流通の充実を進めるためには、通信ネットワークを用いた遠隔授業、各種メディア開発、教育情報の流通等の教育・研究のための基盤整備が必要となります。このため、共同利用施設として教育メディア研究センター等の設置の申請を検討しています。

⑥大学院、生涯教育講座、郷土資料館等の校舎建設

教育学部は、ここ数年間で、大学院、生涯教育講座等が設置され、さらに遠隔教育、社会人入学等が進み出し、その教育・研究内容の充実を図るためには、現在の校舎のままでは困難です。また、今後、大学院の昼夜間開講、生涯教育講座、博物館等を充実するためには、新しい校舎建築が緊急の課題となってきました。

この他に、教育学部の充実のためには、いろいろな解決すべき課題があります。

例えば、最近の就職協定がなくなり、4年次での教育実習が困難であること、また、早い時期に教育学部の学生としての自覚および児童・生徒を知ること、教育実習の多様化等が必要とされています。そこで、教育実習を3年生に実施、さらに飛騨地区等での教育実習をはじめようと検討を進めています。

大学院博士課程の設置については、まず、調査費を概算要求し、今後、どのようにすべきか検討を進めることにしています。

ぜひ、多くの方々の協力で、一つひとつ解決して行きたいと考えています。教育学部は、明治6年に師範研修学校として設置されてからまもなく、開学130年になります。それまでにはより充実した教育学部への発展を願っています。

今後とも本学部の発展のためにご協力くださるようよろしくお願いいたします。

教育学部学生の平成9年度岐阜県教員採用試験結果

総務部会長 渡邊 義行

昨年(平成8年8月発行)の同窓会報(第2号)で、教育学部卒業生の岐阜県教員採用の合格率(受験者に対する比率)は52%に低下し、教職への道が厳しい時代となったことを報告した。その後、平成8年10月に平成8年度の採用結果が出されたが第2号会報には平成7年度の結果までしか報告できなかった。平成9年の会報の発行が12月になったので、平成8年度と平成9年度の採用結果を掲載できることとなった。

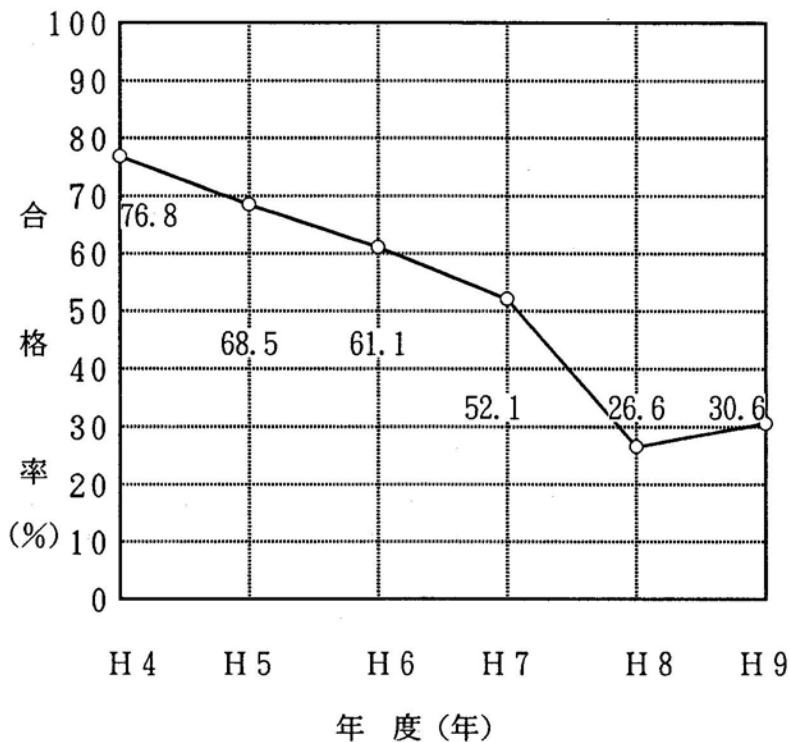
さて、平成8・9年度の教員採用状況はどうであったかをここに報告し、諸先輩からのご指導ご鞭撻の資料としたい。

平成9年度の岐阜県教員採用試験合格率と過去5か年の合格率の推移を図に示した。平成8年度の合格率は26%の超低率となり、学部始まって以来、過去最低の合格率となった。平成9年度はわずかに4%を盛り返したものの、平成7年度の52%と比べても20%もの落ち込みである。5年前の平成4年度の76%のことを思うと、これはまさに教育学部の非常事態ともいえる落ち込み方といえよう。

平成9年度の就職状況は未だ確定したわけではないが、今年度も教職以外への道に進む卒業生が増えることは必至である。何とかして、教育学部で学び得たものを他職種で生かしてもらいたいと考える。

このように今後、教職以外の道に進む同窓会会員が増えていくとすれば、本同窓会は教育に関わる事業のみを考えているわけにはいかない時代が来ることになる。同窓会活動の多様化が今後の課題となろう。

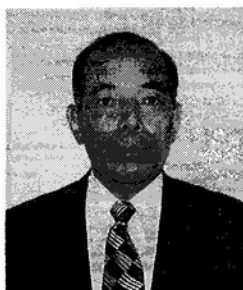
教育学部長の学部改革のお話(本号15~20頁)にもあるように、このような教員採用数の減少を受けて、全国で教育学部学生定員削減計画が進められている。本学においてもその煽りを受けて、学部の再編成が進められている。本年度から新しく就職担当の専門事務職員と、臨時職の雇用が可能となった。社会変容のうねりが学生の進路に容赦なく襲いかかってくる。活路を見い出さねばならない。このような折りだからこそ、諸先輩の方々に絶大なるご鞭撻を心よりお願いしなければならないと考えている。(平成9年10月25日記)



教育学部学生の岐阜県教員採用試験受験者に対する
年度別合格率 (%)

岐阜大学の現状報告と 開学50周年記念事業へのご支援のお願い

岐阜大学長 金城 俊夫



平成7年6月より、加藤晃前学長の後を受け、学長を務めさせていただいていますが、今回本会報を通じてご挨拶する機会が与えられ、嬉しく思います。

貴教育学部同窓会員の皆様には日頃教育学部だけでなく、岐阜大学全体の充実発展のためにも、色々ご指導とご支援をいただいておりますことに対して厚くお礼を申し上げます。

大学は今、大きな変革期を迎え、岐阜大学の各学部においても教育・研究環境の一層の整備充実は勿論、社会の多様な要請にも的確に対応できるようそれぞれ改革を行っているところであります。その一環として、お陰様で教育学部には念願の大学院が設置されましたし、教養部廃止と全学部の改組により「地域科学部」という新しい学部を創設することができました。

また本学では地域の教育、文化、産業の振興、活性化にも貢献すべく生涯学習への対応、産・官・学の共同研究の推進など積極的に取り組んでいます。

さらに国際交流にも力を入れ、現在7か国15大学と学術交流協定を結び、30以上の国と地域から230名余の留学生を受け入れています。

今後とも私どもは不断に自己点検・評価を行いながら、一層の改革を進め、地域社会に貢献しうる大学づくりに努力する所存であります。

さて、岐阜大学は昭和24年6月に、国立学校設置法の公布により新制大学として設置されましたが、平成11年に50周年の節目の年を迎えることになりました。各学部の創立の歴史は異なりますが、この機会に全学部の同窓会のご協力ご支援を得て、開学50周年記念事業を実施すべく計画いたしました。幸い、各学部同窓会長さんのご理解も得られ、具体的に事業に取り組むことになりました。事業内容につきましては本会報でご紹介があらうと思いますが、次の50年、21世紀に飛躍する岐阜大学に相応しい事業にたく計画していますので、貴教育学部同窓会員の皆様にも是非ご協力と資金面のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

各学科等同窓会トピックス

在京岐阜師範・岐阜大学同年会「長良会」は、昭和60年発会。

会員は、特別会員を含め22名(帰郷されている人も含めております)。

年に一度懇親会を開催、4割近く出席しています。今の目標は全員参加の会を開くことです。お互い連絡しあっていますが、体調を崩している方もおります。元気でがんばることが合い言葉です。

鎌倉か秩父の自然を満喫しながら昔を今を語り散策といった会員からの希望があり、来春にでもと計画予定です。今春はフーテンの寅さんの舞台となった葛飾柴又の帝釈天で会しました。同封の写真はその時のものです。(1996年6月8日 東京葛飾区柴又帝釈天境内 川魚割烹・川甚にて)

(会長：堀江 了典，副会長：田中・藤本)



各科同窓会の活動から

このコーナーでは毎号、各科同窓会の総会や様々な活動のようす、これからの予定などについて、お知らせしていきます。簡単な紹介文でけっこうですので（写真などもあれば一緒に）事務局までお送りいただければ、次号に掲載していきますので、よろしく願いいたします。

■国語科 （事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 古田雅道）

国語国文学科全体としての同窓会は、ここ何年か行われていないが、卒業年次毎の同窓会は、それぞれ行われている。昭和28年4月入学者による「二八（ニッパチ）国文の会」（世話係・松野知文氏）を例に挙げると、この同窓会は、毎年8月第4土曜日に開かれ、例年12～13名が参集する。文集「ながら」を発行し、宿泊もこれまで5回ぐらい行っている。平成5年に発行した国語国文科同窓会名簿の改訂の時期でもあり、こうした卒業年次ごとの同窓会の状況の把握を、事務局としても行いたいと思っている。

■社会科（地理） （事務局 羽島市竹鼻町3176 竹鼻小学校 豊島博）

1. 機関誌「濃飛」の発行（毎年度発行）＊29号発行予定
2. 総会「濃飛の集い」（毎年度開催）＊第22回はH9. 8. 2開催予定

■社会科（哲学） （事務局 岐阜市加納西丸町1丁目73-2 山田健司）

毎年夏に哲学科同窓会として「哲学の集い」を開催しています。今年度の日程等は下記のとおりです。

1. 期日：平成9年8月2日（土） PM2：00～4：30
2. 場所：ふれあい会館
3. 内容：社会科実践発表 海津の暮らし
パネルディスカッション（岐大教授）
社会的なもの見方・考え方

■**数学科** (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校)

1. 総会開催日：平成8年5月10日(土) 教育学部本館7階会議室
記念講演：「数学的言語表現とその改善の方策」
岐阜大学教育学部・岩田恵司教授
実践研究発表：岐南町立岐南中学校・今井田明弘教諭(37期)
坂祝町立坂祝小学校・杉江麻美教諭(43期)
2. 夏季研究会：平成8年8月23日(土)
会場：郡上郡高鷲村・民宿「和田屋」
実践研究発表：東白川村立東白川小学校・早川英勝教諭(44期)
輪之内町立輪之内中学校・宇野聡教諭(40期)
(夏季研修会は、毎年各地域をまわり、その地域の先生方との交流を深めながら開催している。)
3. 総会開催周期：毎年
4. 会員名簿：平成8年5月発行(毎年)
5. 会員数 1部1168名, 2部78名, 計1246名

■**理科(物理)** (事務局 加茂郡八百津町八百津378 鈴村雅史)

同期生の横の連絡を密にしながら名簿の訂正を図る。
物理科の同窓会を持つ/物理科の役員会を持つ。

■**理科(化学)** (事務局 羽島郡柳津町佐波2093-2 華井章裕)

3月16日：役員会
6月29日："
8月10日：総会

■**理科(生物)** (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 神崎弘範)

6月28日 同窓会理事会
8月10日 同窓会総会
理事会(年2~3回)及び隔年で総会/会誌の発行を交互に実施

■**音楽学科** (事務局 岐阜市花ノ木町2-23-2 三羽幸夫)

本年は、音楽科同窓会報「間」第27号を9月1日付けで発行します。8月31日に発送作業を行い、9月1日に全会員、名誉会員等へ完全郵送いたします。海外会員を含む843名と大学の諸先生(現旧)等20名計863名に送ることにしています。来年は第11回総会と第11訂名簿の改定を予

定しています。役員の改選もおこなわれます。

■美術科 （事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 木村充）

1. 平成9年度美工科謝恩会開催（8月）
2. 県造形教育ゼミナールを開催（8月）
3. 図工・美術研究大会県大会を多治見市を中心に開催（11月）
4. 同総会会員名簿作成の予定（2月）

■体育科 （事務局 岐阜市柳戸1-1 教育学部・渡辺義行研究室内）

1. 総会、還暦を祝う会（還暦を迎えた会員全てが対象）、懇親会の3本柱で平成9年6月14日「石金」で開催。
2. 顕彰制度の設立
各種スポーツ競技大会で優秀な成績をあげた在校生を対象に表彰するもの。
3. 創立50周年記念事業
平成11年6月12日（土）予定、会場は未定。準備委員会を設立して内容を検討中。

■技術科 （事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 吉田竹虎）

平成8年4日大垣市で総会。組織の円滑な活動を期して各卒業年次ごとに幹事を選任した。また現職会員の活動状況、東海北陸大会の概要報告や大学の現状報告がなされた。その後懇親会をもち、有意義な総会となった。出席者52名。次期総会は平成11年、岐阜地区にて開催の予定。

■家政科 （事務局 岐阜市教育委員会学校保健課 藤井佳代子）

次回同窓会は平成11年夏の予定。

■英語科 （事務局 本巣郡真正町下真桑1010 井村晃）

H9.7.12・岐阜未来会館において、平成9年度ランタン会総会について検討の予定・役員改選について検討

■学校教育 （事務局 岐阜市柳戸1-1 教育学部・宮本正一研究室内）

昭和30年頃に設置された教育学部の名簿は多くの変遷をたどっています。こうした現実をふまえて、今当学科の同窓会名簿の改訂版を作成中です。

編集後記

◆本年度は役員改選の年にあたり、本号掲載のように新役員が決定し、会長も交代されました。田中貞一郎先生ありがとうございました。宮川清司新会長よろしくお願いたします。新会長のもと運営委員会もがんばっていきたく存じます。

◆平成11年に岐阜大学創立50周年の記念事業があります。金城俊夫学長のご挨拶にもありますとおり、教育学部同窓会も記念事業の準備・実施に協力し盛り上げていきたく存じます。会員の皆様の物心両面にわたるご支援を何卒よろしくお願いたします。

◆いろいろな事情から第3号の発行が遅れました。お詫び申し上げます。その代わりということではありませんが、この号から、同窓会事務局から直接会員一人一人に送付することになりました。これまで会報配付にご協力いただきました各学科等同窓会の役員の皆様には感謝申し上げます。会員一人一人に確実に届くためには、各学科等同窓会が集約・更新されている同窓会名簿が命です。今後ともよろしくお願いたします。

◆会報に掲載する記事を募集いたします。各科同窓会での小さな集まりのことでも結構です。写真などと一緒にお知らせください。よろしくお願いたします。同窓会事務局の所在地は、下の囲みのとおりです。また、会員の動静についてもお知らせいただければと思います。

※同窓会事務局の電話番号が以下のように変わりました。

岐阜大学教育学部同窓会報	第3号	平成9年12月	発行
発行者	宮川 清司		
発行所	岐阜大学教育学部同窓会		
〒501-11	岐阜県岐阜市柳戸1-1	岐阜大学教育学部内	
☎058-293-2344			